

古い文書をどうしよう…



家を片付けていたら古い文書が出てきた。虫食いもカビもひどいけれど、捨てるにはいけないような気がする…。

高齢化に伴い、家を整理する方が増え、こういったお話をよく伺うようになりました。

文書の多くは、さまざまな出来事をきっかけとして当時の人々が後世に伝えるため書き残したものです。ごみとして捨ててしまえば、私たちはその出来事にも、先人の思いにも永遠に触れることはできません。また、貴重な資料とは江戸時代の古文書ばかりではありません。急激な速さで生活様式が変化する現代では、明治・大正・昭和の日常の記録や、地域の祭りや婚礼の写真といったものも、歴史を語る大切な資料となります。



市史編さん事業には、市史を刊行するだけでなく、歴史を記録し伝えていく役割もあります。上記の写真のように虫食いがあっても資料として役立つことは多いのです。古い資料の扱いに困ったら、捨てる前にお気軽にご相談ください。

道しるべの話

西紀支所の前の道路、県道篠山三和線と旧県道篠山長安寺線の交差点に道しるべがあります。東面「右 なりあい兵主山」、南面「左 たしま」、西面「すく(直)京いせ」、北面「すく きよ水大坂 左 京いせ」と刻まれています。「きよ水」とは播州清水寺、「なりあい」は丹後成相寺、「いせ」は伊勢神宮を指しています。この道しるべには、天保15年(1844)建立の銘が残されており、当時の人々の旅行には、西国巡礼やお伊勢参りが大きく関係していたことが分かります。

また、このまま旧道を北上すると上板井に大きな自然石の道しるべがあります。読みにくくなってしまいましたが「左 大やま かいばら、右 ふくち山 なりあい」と刻まれています。なりあいへ行く道は佐仲峠を通過して国領に抜ける峠道であり、これが当時の主要な街道であったことがわかります。

道しるべは、徒歩で移動していた時代の人々の動きや生活圏を示してくれる「歴史の道しるべ」です。



編集後記

市史編さんの参考になればと、市民の皆さんから途切れることなく資料を寄せていただいております。感謝の念に堪えません。資料の多くは新出であり、他の地域ではあまり目にすることがない希少な情報に出合

うことも少なくありません。遠い昔の記憶を地域や家で脈々と受け継いできた丹波篠山の豊かな時間と人々のしなやかな強さに思い至ります。

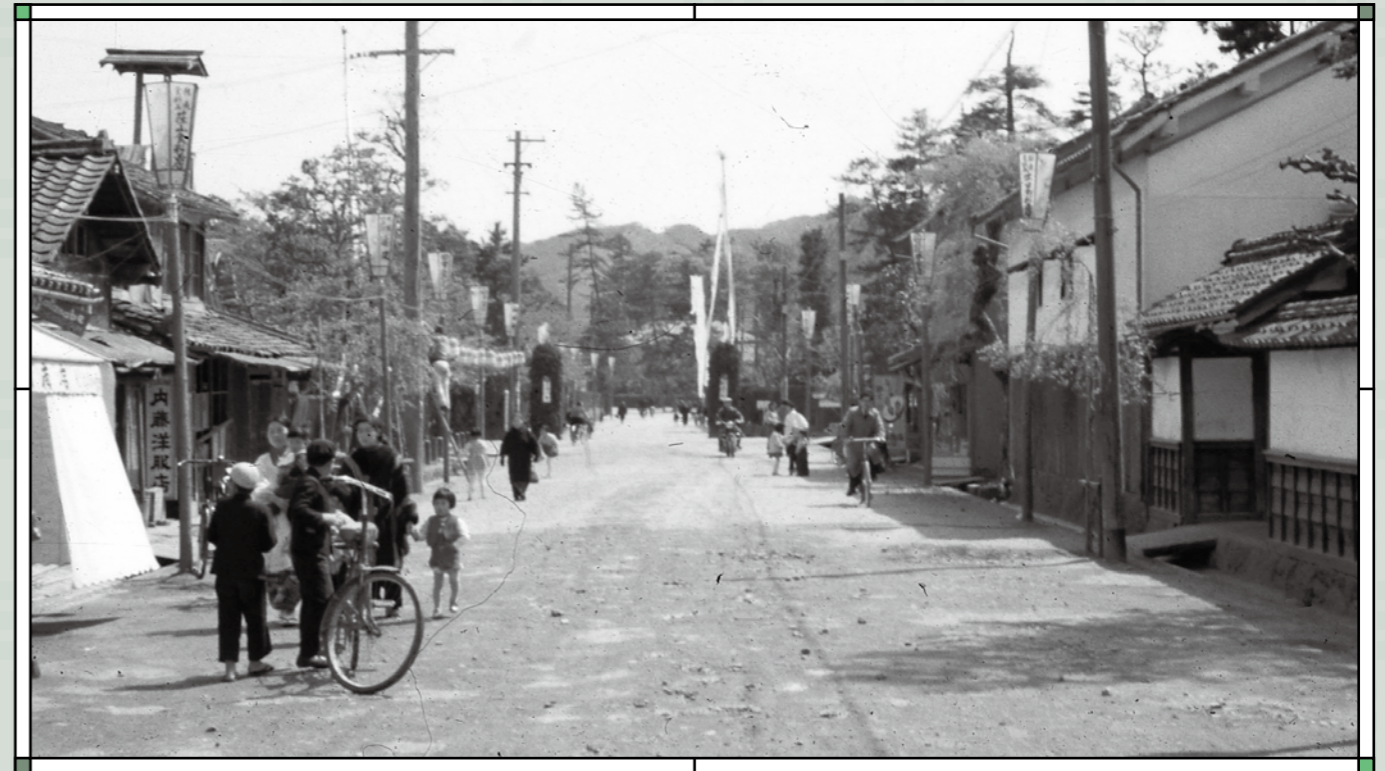
これから寒い冬がやってきます。皆さん、どうぞご自愛ください。

丹波篠山市史編さんだより 第1号
令和5年1月20日発行

発行 丹波篠山市立中央図書館
〒669-2206 兵庫県丹波篠山市西吹88-1
Tel 079-590-1301

丹波篠山市史編さんだより

第1号
令和5年1月



現在の大手通



▼令和2年に無電柱化が完了し、広い視界に大書院の雄大な屋根が迫ります

昭和30年頃の大手通の風景
現在の二階町交差点、三井住友銀行付近から篠山城跡に向かって撮影された大手通の様子です。写真の中央では祭礼ののぼり旗がたなびいています。この前後のスライドでは桜が咲いていることから、青山神社の春の例祭の頃と推測できます。
この写真が撮影された当時、二階町交差点は丁字路であり、現在北に抜ける道となっている場所には、篠山警察署がありました。祭りちようちんを飾る作業が進んでいる付近には当時の篠山町役場、その先には篠山鳳鳴高等学校があり、朝に夕に多くの人が行き交う、にぎやかな通りとなっていました(中央図書館所蔵)。

丹波篠山いまむかし

もくじ

楽しく読む市史編さんをめざして	P2	地域資料整理サポーター	P6
古い資料はありませんか?	P2	収集資料紹介「禁門の変の話 石田家文書」	P7
丹波篠山市史の構成と刊行計画	P3	上立町自治会文書の調査報告会を開催しました	P7
市史編さんの体制	P3	古い文書をどうしよう	P8
市史ができるまで	P4,5	道しるべの話	P8
市史こぼればなし	P6	編集後記	P8

楽しく読む市史編さんをめざして

丹波篠山市史編さん委員会 委員長 ^{いまいすすむ} 今井進さん

市政30周年の記念事業として、丹波篠山市史編さんがされようとして3年が経過いたしました。残念なことに新型コロナウイルスのまん延により、当初の計画を見直さなければならない事態が起りましたが、新型コロナウイルスも沈静化の傾向にあり、ようやく具体的に市史編さんに係る作業を再開しました。

丹波篠山の市史は、古代、中世、近世、近現代の通史はもちろんのこと、考古、文化財、自然環境、地域編の分野に分かれ、丹波篠山の歴史を有史以前から近現代に至るまで書きとどめようとする遠大な計画で進められています。丹波篠山は古代から都に近く、日本の文化を形成していく上で重要な役割を果たした地域であります。これらの歴史を裏打ちする多くの史料を市民の皆さまからご提供いただき粛々と編さんに向けた作業を進めております。



自分の町や村の歴史が知りたい時に、まず手に取られる身近な図書としてご利用いただきたいのと、楽しく読んでいただく歴史書になればとの願いをもっております。

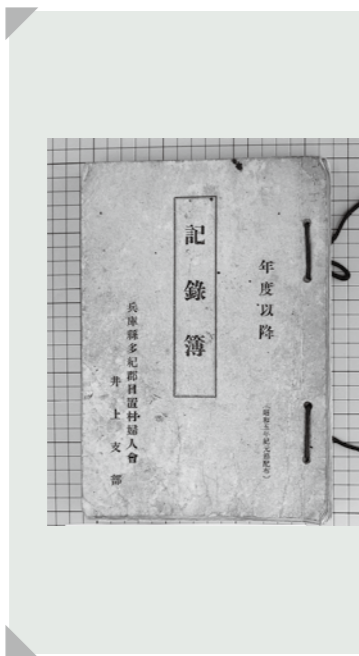
私たちの祖先が営々として築いてきた丹波篠山の歴史と文化、時には命をかけて生活を守り、また、時にはあらがいがながら育んできた歴史資産を、市史を通して後世の人々に語り伝えたいと思います。

探しています

古い資料はありませんか？

丹波篠山の歴史を知る手掛かりとなる資料を探しています。次のような資料をお持ちでしたら、ぜひお知らせください。

- ・江戸時代以前の墨で書かれた書き物や帳簿
- ・明治・大正・昭和の手紙、手記、帳簿
- ・連隊や鉄道にまつわる資料や写真
- ・自治会や講、寺院・神社に伝わる書類や記録
- ・絵図や地図(時代不問)
- ・青焼き図面
- ・日常を撮影した写真や8ミリフィルム
- ・婦人会や青年団などの活動記録
- ・古い会誌、記念誌、日記、チラシ、広告



お預かりし、整理・写真撮影、目録作成などを行った上でご返却し、市史編さん事業に活用させていただきます。
また、地域に伝わる行事や地名、伝承、石碑などについて、市民の皆さまにお話を伺う聞き取り調査も今後行っています。ご理解の上、ご協力をお願いします。

丹波篠山市史の構成と刊行計画

丹波篠山市史では、過去に編さんされた旧町・村史をはじめとするこれまでの調査研究成果のほか、地域に眠る資料をできる限り集め、原始から現在までこの地で展開された歴史や文化、人々の暮らしを明らかにします。

丹波篠山市が日本史のなかで果たした役割、他地域とのつながりも視野にいれ、分かりやすく市民に親しまれる市史、私たちの郷土丹波篠山市をもっと好きになる市史をめざし、「通史編」「地域編」「資料編」として令和10年度を目標に刊行する計画です。

通史編

資料の調査成果にもとづき、考古・古代・中世・近世・近現代・文化財・自然環境の7つの専門的な視点で丹波篠山の歴史を書き記します。



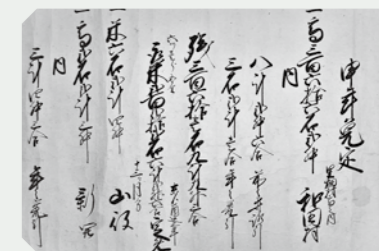
地域編

地域に残る歴史・文化・伝統、年中行事や人々の暮らしの記憶について、市民の皆さんとともに調査研究し編さんします。



資料編

通史編の記述の根拠となったさまざまな資料について紹介する資料集です。さらに深く掘り下げたいときの道案内となります。



市史編さんの体制

市史編さん事業は、次のような体制で進めます。通史編については7つの専門部会に分かれて編さんします。

丹波篠山市史編さん委員会

通史編専門委員会

- ・考古編専門部会
- ・古代編専門部会
- ・中世編専門部会
- ・近世編専門部会
- ・近現代編専門部会
- ・文化財編専門部会
- ・自然環境編専門部会

地域編専門委員会

現在それぞれの委員会および専門部会ごとに委員を委嘱し、研究者の視点でとらえた丹波篠山市の姿をどのように書き記していくのかについて、ワクワクするような議論がなされています。過去に収集された資料や、市民の皆さんから寄せられる資料についても調査が始まっています。

次号の市史編さんだよりでは、委員の皆さんのご紹介と部会ごとの活動をお伝えする予定です。どうぞお楽しみに。



市史ができるまで

大きな災害や戦火にあうことがなかった丹波篠山には、他地域では例をみないほどの膨大な資料が残っています。これらをもとに市史を刊行するまでの工程や作業についてご紹介します。

収集

資料収集

丹波篠山での人々の暮らしや環境を示す資料を収集します。多くの場合は、資料をお借りし、持ち帰って整理を行います。

どんな資料を集めるの？

地域に伝わる資料

家や自治会、寺社など地域で保存されてきた資料です。古文書のほかにも石碑や仏像、建造物、生活道具、近現代の場合は写真やレコードなども対象となります。

図書館や博物館に保存されている資料



持ち出しできない資料の場合は、現地で写真撮影をさせていただくこともあります。



整理

クリーニング

資料には、虫食いがあるものや、水ぬれで固まってしまったものもあります。丁寧に開き、埃やごみをとりのぞきます。



写真撮影

1ページずつ、1枚ずつ撮影をし、デジタル情報として整理します。



目録作成

資料が書かれた時代や形態、内容について、一点ごとに記録して、資料の全容がわかる目録を作成します。



調査

資料の検討

目録から重要な資料を選び、内容やその意味を検討します。古文書を読み解く力や、深い歴史の知識が必要な作業です。



現地調査

資料に登場する地名などをもとに、実際に現地に行き、聞き取り調査も行います。



調査報告会

調査して分かったことは、調査報告会や図書館展示などでお知らせします。



編集

執筆

調査結果をもとに原稿の執筆を行います。

校正と編集

原稿に内容の間違いや誤字がないか、何度も編集や校正作業を重ね、市史が刊行されます。



資料の返却

お借りした資料は、劣化を抑えるため中性紙でできた封筒や文書箱に収納し、写真データおよび目録とともに返却します。



専用の木箱に収められていた場合など、保存の状態そのものにも歴史的価値がある場合は、お預かり時の姿をなるべく崩さないように整理し、返却します。

丹波篠山のロゴマーク

文字を読まなくてもデザインだけで情報を伝えることができるのがロゴマークですね。丹波篠山市でも令和4年10月に丹波篠山ブランドの魅力満載のロゴマークを決定しましたが、江戸時代にも丹波篠山を示すロゴマークが存在しました。



大江講 講札(江戸時代後期 個人蔵)

写真は、伊勢講のひとつである大江講の講札です。講元と墨書された上に、山と笹、つまり篠山を示すマークの焼印が押されています。

札の裏面には「御師 橋村市太夫」とあります。御師とは伊勢神宮に所属する神官です。全国の神宮信者に伊勢暦や札を配るほか、伊勢参りの際の参拝や宿泊の世話をし、現在の旅行会社のような仕事もしていました。橋村市太夫は外宮の御師であり、丹波篠山の地方檀家との専属契約を結び、大江講という伊勢講を持っていました。講では、伊勢参りをする旅人に、写真のような講札を持たせ、必ず講指定の宿に講札を提示し宿泊することとしました。

また、講指定の宿や街道を示した「定宿帳」といわれる伊勢参りガイドブックも発行されており、旅人は定宿帳に記載された街道を歩き、講札を宿で提示することで安心して旅を続けることができたそうです。

今の
ロゴマークはこれ!



地域資料整理サポーター

中央図書館には、近世から近代にかけての貴重な古文書や郷土資料、町史編さん時に収集された資料等の地域資料が数多く保存されています。これらの資料を整理し、目録作成やデジタル化をして活用できる形にすることに取り組んでおられるのが、地域資料整理サポーターの皆さんです。

これまでも、郷土史家の奥田榮々斎によって収集された楽翁文書や、旧丹南町史編さん時の収集資料など利用頻度の高い資料の整理を行い、歴史資料の保存と活用に大きく貢献されています。市史編さん事業も、サポーターの皆さんの意欲的な活動に支えられ、整理・調査が進んでいます。



●地域資料整理サポーターの活動

日時 毎週水曜日 13:00 ~ 17:00

場所 丹波篠山市立中央図書館 創作活動室

毎週の活動日のほか、年に6回の研修会があります。

地域資料整理サポーター活動に参加しませんか

市史編さんでは、収集資料の整理をお手伝いいただける方を募集しています。古文書の解読だけでなく、資料のクリーニング作業や写真撮影など、さまざまな作業が資料整理には必要です。これについては今後、研修の機会を設ける予定です。

本物の古文書に触れる機会はきっとあなたを新しい世界に導いてくれるはずです。ご連絡をお待ちしています。

中央図書館 市史編さん係

☎079-590-1301

収集資料紹介



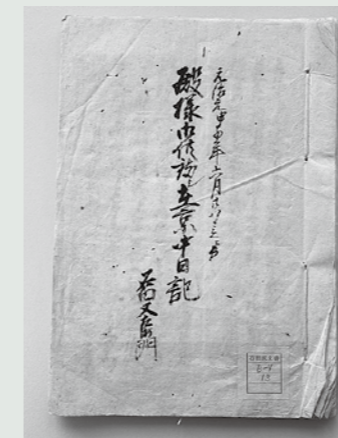
禁門の変の話 石田家文書

神戸大学大学院人文学研究科特命助教 松本充弘さん

江戸時代の丹波国多紀郡和田村に居を構えた石田家は、代々の当主が「畑組大庄屋」や「郡取締」を歴任しています。これらは当時の篠山藩領全体を見渡す職務で、石田家は地域社会における公共的な役割を担っていました。令和3年に丹波篠山市へ寄贈された石田家文書は、江戸時代から昭和期までの歴史資料4,000点以上からなる文書群です。この中には40点近い「役向日記」が含まれており、職務上の記録はもちろん、当事者でなければ語りえない心情が吐露されている部分も少なくありません。

なかでも興味深いのは、元治元年(1864)7月19日に起きた「禁門の変」にあたり、当時郡取締を務めていた石田又左衛門が篠山藩兵や猟師・郷夫らとともに京都守衛の「御供」を命じられた際の日記です。彼は

6月28日に篠山を出発し、長州藩と諸藩との交戦も間近で目撃しています。「弓矢や鉄砲玉が雨のように飛び交い、本当に恐ろしい」「武器を回収するため、やむを得ず死骸を踏み越した」、などの克明な記録は、無慈悲な戦闘の様子を私たちに伝えます。



開戦前には京の六角堂に参詣するなど比較的平穏に過ごしていた石田又左衛門ですが、7月19日以降は雨露をしのぐ場所や食事にも事欠いたようです。そのためか、7月晦日の帰宅時には「出発から33日目のことだった」とあり、疲労困憊の様子がうかがえます。しかし、その後も「天狗党の乱」(水戸)や「四国連合艦隊下関砲撃事件」(長州)などの風聞を書き留めており、旺盛な執筆意欲と情報収集力の高さに驚かされます。

このように貴重な史料をご寄贈くださった石田榮代さんをはじめ、調査や整理に携わられた方々に深く感謝申し上げます。

上立町自治会文書の調査報告会を開催しました



上立町自治会にご協力いただき、自治会が所蔵している多数の史料が収められた長持1箱を1年間借用させていただいて、史料整理・調査を行いました。その結果、主に江戸時代後期から昭和前期にかけての城下町における町に関する貴重な史料1,423点が保存状態よく残されていることが分かりました。

令和4年11月19日に自治会の皆さんに調査結果をお伝える報告会を開催し、多くの皆さんにご参加いただくなか、史料の概要や注目すべき史料の解説、史料から復元する江戸時代の上立町の姿などについて報告しました。

報告会では、江戸時代の文書に登場するなじみ深い屋号に思い出話がはずみ、「知らなかった城下の歴史について知ることができた」「楽しかった」という感想をたくさんいただきました。

大切な史料を長期にわたり借用させていただき、また報告会にご参加いただきました上立町自治会の皆さん、誠にありがとうございました。